

国連開発計画 (UNDP)



ミレニアム開発目標



Millennium Development Goals (MDGs)

今日我々が直面する主たる課題は、グローバル化が世界の全ての人々にとり前向きな力となることを確保することである。

We believe that the central challenge we face today is to ensure that globalization becomes a positive force for all the world's people.

国連ミレニアム宣言

ミレニアム開発目標(MDGs)とは

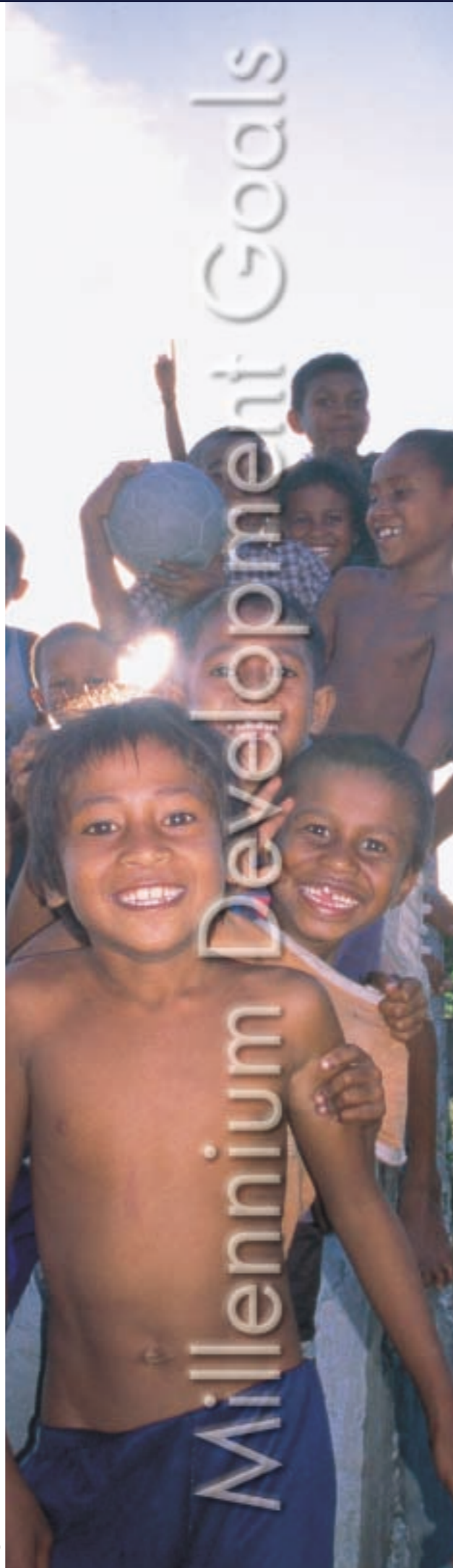
2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言を採択しました。このミレニアム宣言は、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッド・ガバナンス（良い統治）、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する明確な方向性を提示しました。そして、この国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通した枠組みとしてまとめたものがミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）です。



©Shinji Shinoda/UNDP Tokyo

MDGsが掲げる目標自体は必ずしも目新しいものではありません。しかしながら、先進国と開発途上国双方を含む世界中の指導者が人間開発（Human Development）を推進する上で最も国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対して、2015年という達成期限と具体的な数値目標を定めて、その実現を公約したことは画期的なことであります。MDGsの8つの目標はいわば、国際社会がとるべき行動の指針です。MDGsは、2015年までに国際社会が達成すべき8つの目標と、18のターゲット、48の指標を掲げています。

©Shinji Shinoda/UNDP Tokyo



ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals)

<p>1 極度の貧困と飢餓の撲滅 Eradicate extreme poverty and hunger</p> <p>ターゲット1 2015年までに1日1ドル未満で生活する人口比率を半減させる。</p> <p>ターゲット2 2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。</p>	<p>6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases</p> <p>ターゲット7 HIV/エイズの蔓延を2015年までに阻止し、その後減少させる。</p> <p>ターゲット8 マラリア及びその他の主要な疾病の蔓延を2015年までに阻止し、その後減少させる。</p>
<p>2 普遍的初等教育の達成 Achieve universal primary education</p> <p>ターゲット3 2015年までに、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。</p>	<p>7 環境の持続可能性の確保 Ensure environmental sustainability</p> <p>ターゲット9 持続可能な開発の原則を各国の政策や戦略に反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。</p> <p>ターゲット10 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減する。</p> <p>ターゲット11 2020年までに、最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する。</p>
<p>3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上 Promote gender equality and empower women</p> <p>ターゲット4 初等・中等教育における男女格差の解消を2005年までには達成し、2015年までに全ての教育レベルにおける男女格差を解消する。</p>	<p>開発のためのグローバル・パートナーシップの推進 Develop a global partnership for development</p> <p>ターゲット12 開放的で、ルールに基づいた、予測可能でかつ差別のない貿易及び金融システムのさらなる構築を推進する。（良い統治〈グッド・ガバナンス〉、開発及び貧困削減に対する国内及び国際的な公約を含む。）</p> <p>ターゲット13 後開発途上国（LDC）の特別なニーズに取り組む。（①LDCからの輸入品に対する無関税・無枠、②重債務貧困国（HIPC）に対する債務救済及び二国間債務の帳消しのための拡大プログラム、③貧困削減に取り組む諸国に対するより寛大なODAの提供を含む）</p>
<p>4 乳幼児死亡率の削減 Reduce child mortality</p> <p>ターゲット5 2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる。</p> <p>5 妊産婦の健康の改善 Improve maternal health</p> <p>ターゲット6 2015年までに妊産婦の死亡率を4分の3減少させる。</p>	<p>8 内陸国及び小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む。 （バルバドス・プログラム及び第22回国連総会の規定に基づき）</p> <p>ターゲット14 国内及び国際的な措置を通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。</p> <p>ターゲット15 開発途上国と協力し、適切で生産性のある仕事を若者に提供するための戦略を策定・実施する。</p> <p>ターゲット16 製薬会社と協力し、開発途上国において、人々が安価で必須医薬品を入手・利用できるようにする。</p> <p>ターゲット17 民間セクターと協力し、特に情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする。</p>

©Bill Lyon/UNDP

©Lorena Guillen-Vaschetti/UNDP

MDGsの達成に向けた国連の取り組み

国連ミレニアム宣言の実施にあたっては、各国政府が一義的な責任を担っていますが、国際機関のみならず、市民社会、非政府組織(NGO)、民間企業を含む幅広い国際社会のアクターによる貢献が必要とされています。

国連システムは、従来からの諸機関の活動をMDGsという単一の枠組みのもとに結集させて、加盟国の取り組みを支援しています。国連事務総長は、同宣言の総合的な実施状況を国連総会で定期的に報告する義務を負いますが、これには、同宣言に明示された開発の諸課題を基礎とするMDGsの達成状況に関する報告も含まれています。

MDGsはこれまで、開発のための枠組みを一新させ、世界銀行などのブレトンウッズ諸機関、世界貿易機関(WTO)、G8や地域機関も含むグローバルなパートナーシップを実現させてきました。

国連システムによる取り組みは、以下の4つの柱によって構成され、グローバル・レベル、地域レベルそして各国レベルで、MDGs達成を支援しています。国連開発グループ(UNDG)議長を務めるUNDP総裁は、国連事務総長の要請を受け、「キャンペーン・マネージャー」兼「スコア・キーパー」として、これらの取り組みを推進しています。また、UNDPはUNDGの代表としてミレニアム信託基金(MTF)を管理し、各国からの拠出金を振り向けています。

進捗状況のモニタリング

MDGsの進捗状況について、達成度、進展/後退および期限内の達成に向けたペースからの乖離という観点から、グローバルおよび各国別に信頼性に足るデータを収集するとともに、体系的かつ継続的な報告を行う。

グローバル・レベル

国連事務総長は、2001年以来、年次報告書『国連ミレニアム宣言の実施に向けた進捗状況に関する報告書』を国連総会に提出し、MDGsの進捗状況を公表している。さらに、5年目の節目にあたる2005年には、年次報告を補完する包括的な報告書として、『ミレニアム開発目標報告2005』が、20以上の国際機関から収集された最新のデータをもとに作成された(6-7ページ参照)。

地域・国レベル

国・地域別ミレニアム開発目標報告書(MDGR)は、MDGsの進捗状況を簡潔にまとめ、国内および地域向けの広報と社会的関心の喚起に資することを主目的とする。MDGR作成の過程を通じ、とすればグローバルなレベルに留まりがちな目標とターゲットを各国の視点から捉えなおすことで、「自分達の目標」とすることができる。報告書は、各国のオーナーシップの原則に基づき、国連国別チーム(UNCT)およびその他のパートナーの支援を得て作成されている。

▶ UNDPの取り組み

UNDP途上国常駐事務所は、UNCTによるMDGR支援において、主導的な役割を担っている。本部では、開発政策局(BDP)がUNDGによるMDGsモニタリングを支援している。

研究・分析・提言活動

MDGs達成に必要な政策、制度改革および資金量、資金調達方法とその戦略を算定・評価する。これを実施するのが国連事務総長特別顧問のジェフリー・サックス教授が率いる独立諮問機関、ミレニアム・プロジェクトである。

グローバル・レベル

ミレニアム・プロジェクトは2005年1月、最終報告書『開発に投資する：MDGs達成のための実践的行動計画』を発表し、2015年までのMDGs達成を可能とするための処方箋を提示した。同報告書は、既に世界には最貧国々が直面する問題を解決できるだけのノウハウが存在するが、解決に向けた取り組みの規模が不十分であるとして、開発途上国と先進国の双方に対し、勧告を行っている。

地域・国レベル

2005年、ミレニアム・プロジェクトは、開発途上国がMDGsに基づいた開発戦略を策定するためのハンドブック『MDGs達成に向けた国家戦略を策定する』を発表した。同ハンドブックは、途上国各国に対しては、MDGsを期限内に達成するために必要な資源量を目標毎に特定する作業(ニーズ・アセスメント)を通じて具体的な戦略立案を促す。それによって、ドナー各国に対しては、援助がMDGs達成にどのように寄与しているのかを明確に示すことができる。

▶ UNDPの取り組み

UNDPは、ミレニアム・プロジェクトとともに、各国政府によるMDGs達成のためのニーズ・アセスメントの実施に支援を提供している。

啓蒙・啓発活動

MDGsがすべての人々に共有されるよう、先進国・途上国の双方で、MDGsに対する自発的なサポート運動を支援し、達成に向けたグローバルな気運を高める。これを推進するのがミレニアム・キャンペーンである。

グローバル・レベル

ミレニアム・キャンペーンは、著名人を起用したメディア・イニシアティブ『Only with Your Voice』や、世界各地で行われているMDGs関連イベントに関する情報発信等を行う一方、国際NGO、市民社会団体の連合体やメディアとも協力関係を強化している。『ホワイトバンド・キャンペーン』を展開するグローバルな貧困根絶運動(G-CAP)もそのひとつである。

地域・国レベル

ミレニアム・キャンペーンは、各国で啓蒙・啓発活動を行う団体やネットワークをMDGsという共通の目的のもとに結集させることによって、効果的なキャンペーンを推進している。途上国の啓蒙・啓発活動には、政府に貧困対策を重視した政策の実施を促す活動等が含まれる。先進国における活動には、開発援助に関する公約の遵守、債務救済等を含む開発重視型の政策を訴える活動が含まれる。

▶ UNDPの取り組み

UNDP途上国常駐事務所は、各国のキャンペーンに支援を提供する一方、独自の活動を通じてMDGsの理解促進と普及に努めている。

開発事業の推進

MDGs達成の一義的責任は加盟各国にあるという認識に基づきつつ、国連システムは、MDGs達成に向けた成果重視型の支援を、各機関の権能(マנדート)、比較優位性および独自の資源に基づき、提供する。



地域・国レベル

MDGsは、各国レベルで、国の予算や行政の優先項目に裏付けられた具体的活動に反映される必要がある。国連システムは、国連諸機関が途上国各国において活動を展開するうえでの指針となる国連開発援助枠組み(UNDAF)をMDGsに沿って策定する一方、貧困削減戦略文書(PRSP)を策定した70以上の途上国においては、政府、世界銀行およびその他のドナーと連携し、MDGs達成のための主要な手段としてPRSPプロセスを支援している。

▶ UNDPの取り組み

UNDPは、UNCTを率いる国連常駐調整官(UNRC)として、また5つの重点活動分野を通じて、途上国のMDGs達成を支援している。

2005年:私たちはMDGsにどこまで近づいたのか?

極度の貧困と飢餓の撲滅



1 アジアをはじめ、世界の貧困率は低下。しかし、サハラ以南アフリカでは、数百万人の貧困が悪化し、貧困層の極貧化が進む。飢餓の解消は進展しているが、一部の地域では、農業生産の頭打ちと人口増加で事態が悪化。1990年以来、サハラ以南アフリカと南アジアでは、慢性的飢餓に苦しむ人々が数百万人増加し、5歳未満の幼児の半数が栄養不足に。

普遍的初等教育の達成



2 5つの開発途上地域は就学率100%に接近。しかし、サハラ以南アフリカの小学校就学率は3分の2未満。南アジアやオセアニアなども目標達成にはほど遠い。このような地域では、就学率の向上とともに、全生徒の修了と教育の質を確保するための取り組みが必要。

ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上



3 開発途上国では、小学校就学に関する男女格差は徐々にだが縮小。これは古くから続く男女不平等解消への第一歩。ほとんどの開発途上地域では、女性の就業率が男性より低く、しかも、不安定で低賃金の職業に追いやられることが多い。進展は見られるものの、政府最高レベルでの女性の存在は薄く、全世界の国会議員のわずか16%にとどまる。

UNDPとMDGs

UNDPは国連システムのグローバルな開発ネットワークとして、民主的ガバナンス、貧困削減、危機予防と復興支援、エネルギーと環境、HIV/エイズという5つの重点活動分野のすべてにおいて、開発途上国のMDGs達成に向けた取り組みを支援しています。活動にあたっては、組織内に蓄積された知識と経験の共有化による、ベスト・プラクティスの応用が図られているほか、各国のオーナーシップに根ざしたMDGs達成の鍵となる、能力強化（キャパシティ・ディベロップメント）が重視されています。UNDPは、開発パートナーとしての信頼と実績に基づき、財政政策の分析や国家開発計画へのHIV/エイズ戦略の統合などの広範にわたる能力強化支援策を通じ、各国のMDGs達成を支援しています。

乳幼児死亡率の削減



4 5歳未満の乳児死亡率は低下しているが、そのペースは不十分。予防か治療の可能な原因で死亡する子どもは年間1,100万人、1日あたり3万人に上る。これら幼い命のほとんどは、簡単で安価な解決策を促進する既存のプログラム拡大で防げた可能性あり。

妊産婦の健康の改善



5 毎年、妊娠か出産中に命を落とす女性は50万人以上。重症を負ったり、障害者になったりする女性はその20倍に上る。開発途上地域では、妊産婦の死者削減にある程度の進展が見られるが、出産が最も危険な国々ではまったく進展なし。

HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止



6 エイズは、サハラ以南アフリカで早死にの最大原因となり、全世界で見ても第4位の死因。ヨーロッパの独立国家共同体(CIS)諸国とアジアの一部では、HIVが急速に蔓延。延命策は開発されるも、エイズ自体の治療法はなく、目標達成のためには、世界各地で予防努力を強化する必要あり。

マラリアと結核を合わせると、毎年の死者はエイズとほぼ同数になり、国民経済を枯渇させる要因だ。マラリアによる死者全体の9割を占めるサハラ以南アフリカでは、予防と治療への取り組みが活発化。結核は主としてHIV/エイズの影響で拡大。その発見・治療のために国際的に認められた新しい方法が効果をあげている。



UNDPは様々なプロジェクトを通じて各国のMDGs達成を支援しています。写真は、貧困削減に向けて農作物の生産を支援するコミュニティー活性化プロジェクト(東ティモール)を視察する紺野美沙子UNDP親善大使。

環境の持続可能性の確保



7 大半の国々は持続可能な開発の諸原則に従うことを公約。しかし、世界の環境資源損失を逆転させることについては、十分な進展は見られず。この目標を達成するには、日常生活が周辺の天然資源に直結することの多い貧困層にもっと目を向け、グローバルな協力をこれまで以上に強化する必要あり。オゾン層破壊を食い止めるための行動は、こうした進展が可能なことを実証。

安全な飲み水へのアクセスは改善したが、開発途上国の半分では今も、トイレその他の基本的衛生設備が不足。住宅の改善や生産的雇用の創出は都市人口の増大に追いつかず、都市のスラムに暮らす人々はほぼ10億人に上る。

開発のためのグローバル・パートナーシップの推進



8 国連ミレニアム宣言は、開発途上国が開発を確保するための自助努力を強化する一方で、先進国は援助、債務軽減、貿易機会の改善を通じ、これを支援することを定めた、グローバルな社会契約だ。これら各分野での進展はすでに結実しつつあるが、自ら定めた目標を達成できないでいる先進国も。ミレニアム開発目標を達成するためには、援助と債務軽減の拡大に加え、一層の市場開放や技術移転の加速、開発途上国で増大を続ける若者たちの雇用機会改善が必要。

(国連広報センター「ミレニアム開発目標報告書2005」をもとに作成)

開発のためのグローバル・パートナーシップ

ミレニアム・サミットから5年後という節目にあたり、国連創設60周年を迎えた2005年9月、国連総会首脳会合(世界サミット)が開催され、170カ国の指導者が、国連ミレニアム宣言の課題とMDGsの進捗状況に関する包括的な討議を行いました。同サミットの成果文書では、開発、平和と安全、人権の相互関連性が再確認されると同時に、MDGsを含む開発目標の実現に向けた強い決意が表明されました。また、国連憲章に基づくマニフェストを効果的に果たすよう国連の機能を強化することも合意されました。UNDPは引き続き、国連システム内外の様々なパートナーと連携し、MDGsとよりよい人間開発の実現に取り組んでゆきます。

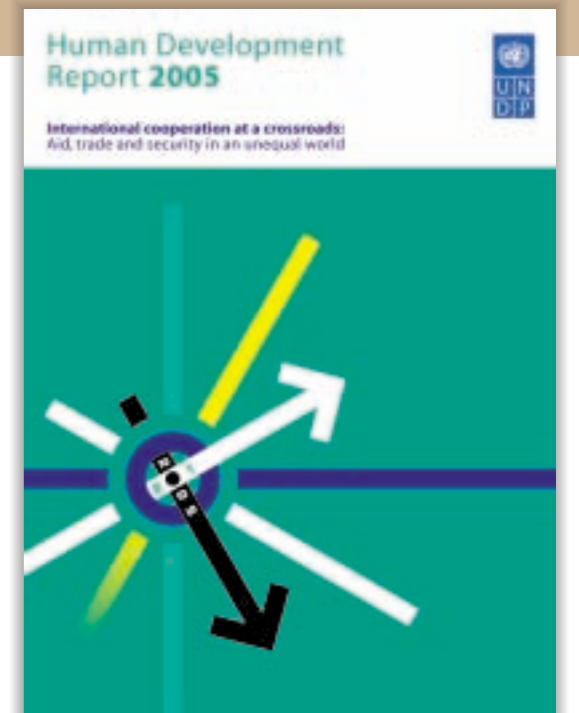


©UN Photo #88889 by Eskinder Debebe

人間開発とMDGs

「人間開発」とは、自由と尊厳をもって、十分かつ創造的な生活をおくれるよう、人々の選択肢を拡大することです。UNDPは「人間開発」を活動理念の柱に据えるとともに、グローバル、地域別、各国別の人間開発報告書(HDR)の刊行を通じて、この概念の普及に努めてきました。MDGsは、人間の福祉(well-being)の考え方を「人間開発」と共有し、人間開発指数(HDI)に組み込まれている「健康・長寿」「教育」「人間らしい生活水準」という諸能力の向上に貢献します。一方で、MDGsは、意思決定への参加や民主的および政治的自由の享受といった「人間開発」の重要な側面は含んでいないことから、「人間開発」の基本的な要素のひとつであり、「人間開発」はMDGsよりも広い概念であるといえます。

HDRは毎年、「人間開発」にかかわる様々なテーマを取り上げています。



I have another goal to score



Ronaldo, UNDP
Goodwill Ambassador



©UNDP Geneva

A goal against poverty

Join us to halve poverty by 2015

略語一覧

LDC	後発開発途上国 (Least Developed Countries)	BDP	開発政策局 (Bureau for Development Policy)
HIPC	重債務貧困国 (Heavily Indebted Poor Countries)	G-CAP	グローバルな貧困根絶運動 (Global Call to Action against Poverty)
ODA	政府開発援助 (Official Development Assistance)	UNDAF	国連開発援助枠組み (United Nations Development Assistance Framework)
NGO	非政府組織 (Non Governmental Organizations)	PRSP	貧困削減戦略文書 (Poverty Reduction Strategy Paper)
WTO	世界貿易機関 (World Trade Organization)	UNRC	国連常駐調整官 (United Nations Resident Coordinator)
UNDG	国連開発グループ (United Nations Development Group)	HDR	人間開発報告書 (Human Development Report)
MTF	ミレニアム信託基金 (Millennium Trust Fund)	HDI	人間開発指数 (Human Development Index)
CIS	独立国家共同体 (Commonwealth of Independent States)		
UNCT	国連国別チーム (United Nations Country Team)		

MDGsに関する参考ウェブサイト

UNDP本部	http://www.undp.org/mdg
UNDP東京事務所	http://www.undp.or.jp/aboutundp/mdg
国連開発グループ(UNDG)	http://www.undg.org
ミレニアム・キャンペーン	http://www.millenniumcampaign.org
ミレニアム・プロジェクト	http://www.unmillenniumproject.org
G-CAP	http://www.whiteband.org



UN
DP

国連開発計画(UNDP) 東京事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 UNハウス8階

<http://www.undp.or.jp/>